

特集：企業内診断士、定年後の世界

終章

定年後の世界へ羽ばたくために



折原 健治

東京都中小企業診断士協会城南支部

本特集は、診断士向けの定年にかかわるアンケートの結果から始まりました。そして企業内で独立準備をされている方の声を届け、最後に定年退職してすでに独立された方に、成功の秘訣や当時の苦労話を赤裸々に語っていただきました。

終章では、我々が取材や調査を通して気づいた点などを含めて、定年に向けた準備としては何をすべきかを中心にお伝えします。

1. どうする、定年退職の時期

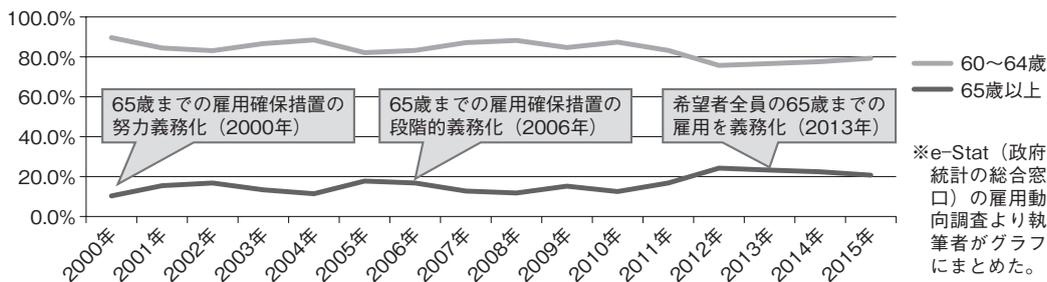
日本では60歳未満の定年制が禁止されています。これは「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」の1998年改正により決まったことです。その後、2000年から段階的に65歳までの雇用確保措置が義務化されていき、2013年からは希望すれば65歳まで雇用延長ができるようになりました。

つまり、定年後に独立を考える方々は、原則60歳から65歳の間で企業を離れることになります。65歳まで待つのも良いですし、60歳で準備ができていたら延長せずに独立することも可能です。

では、一般的に65歳まで働く人はどれくらいいるのでしょうか？ 図表1をご覧ください。e-Stat（政府統計の総合窓口）より離職理由別離職者数の資料を抜粋し、定年に関するデータをまとめたものです。単純な右肩上がりではありませんが、15年間で10.4%から20.7%と約2倍になりました。劇的に増加したわけではありませんが、今後少子高齢化が進み定年70歳時代がくるともいわれているため、この増加傾向は今後も続くと考えられます。

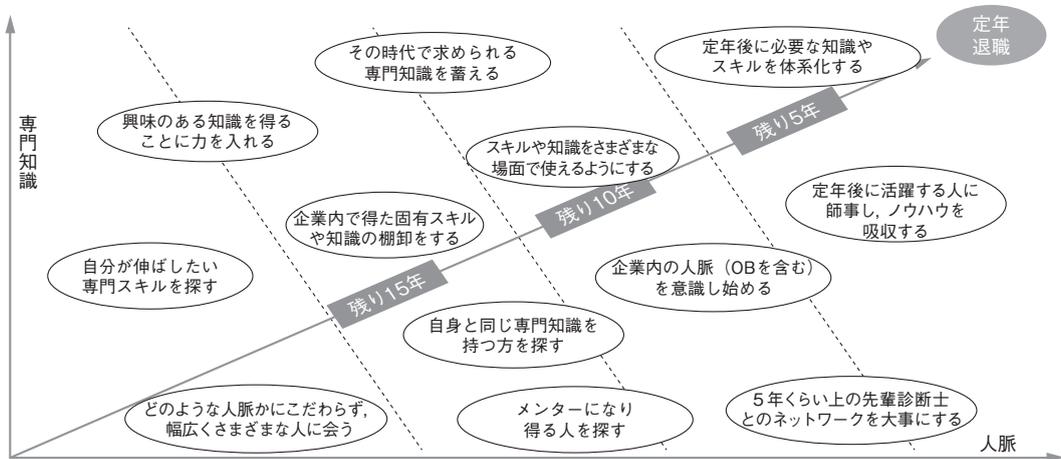
皆さんは60歳で退職しますか？ それともそこから5年間企業に在籍しますか？ 重要なのは自分のキャリアを考えて、去るタイミングを決めるということです。

図表1 定年退職者の年齢別割合の推移



※e-Stat（政府統計の総合窓口）の雇用動向調査より執筆者がグラフにまとめた。

図表2 定年までのロードマップ



2. 定年後に向けたロードマップ

では、定年後に向けて、企業内でどのような準備をすべきでしょうか？

定年までを5年ごとに区切り、その間で何をすべきか、モデルケースとなるロードマップを考えました(図表2)。軸となるのは専門知識と人脈です。これは1章で記述したとおり、この2つが「準備していること」の上位に挙がっているからです。

まず専門知識は、企業内で得るものと企業外で得られるものをバランス良く高めることが重要です。定年までまだ時間がある方は、自分が何に興味を持っているのか、探せる時間があります。キャリアデザインの手法を用いて過去を振り返り、自身を見つめ直し、どのような専門分野に興味があるのか、自分の中から見つけましょう。

また、世の中で必要とされる知識も重要です。たとえば、現在で言えば簡単なITスキルが求められます。とはいえ、それらの知識を専門にしている方は多数いて、レッドオーシャンです。「多少はわかるよ」くらいの+αの位置づけで補充するとよいでしょう。一方、人脈は幅広く開拓するイメージでいましょう。

そしてその後、専門性が近い人をお手本にしつつ、また、定年後活躍する方に成功の秘訣を教えていただけるような関係を構築することが大事になります。

3. いずれ来る定年後を見据える

将来を考えると不安になることもあります。お金、健康、家族のことなど、挙げていけばきりがありません。

しかし、定年後の世界には希望も多いはず。組織を離れて自由な立場で家族や支援したい中小企業について考え、行動できるのはとても楽しいですし、有意義なことでしょう。変に先を考えるのではなく、そのときその場で全力を尽くすことが大切だと思います。

企業内診断士であれば、組織を離れる時期を必ず迎えます。人生100年時代、企業内診断士の皆さんは定年後をどう生きますか？